おごせ教育 Pick up

越生小学校

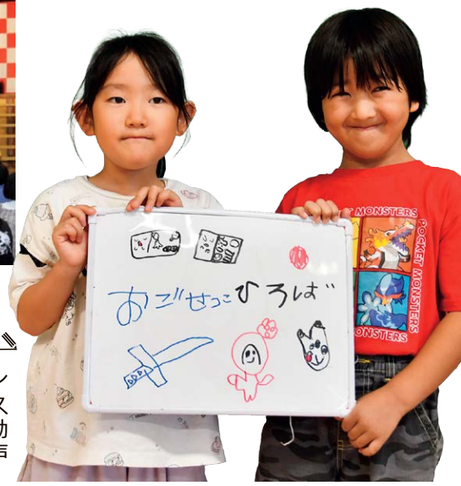
10月19日（土）の土曜授業では、フレンドパークが行われました。１～６年生の縦割り班で児童が中心となってお店の計画から準備、運営までを行いました。当日は、前半と後半に分かれて、お客さんを楽しませる側とお客さんになって楽しむ側の両方を体験しました。校内には、それぞれの活動を楽しむ声がたくさん響いていました。

梅園小学校

10月4日（金）に親子ふれあい演劇鑑賞教室を実施しました。劇団の方をお招きして、狂言ミュージカル「柿山伏」「ぶす」を鑑賞しました。子供達にもわかりやすい狂言だったので、みんな楽しむことができました。

越生中学校

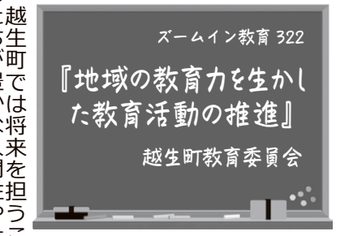
10月26日（土）に、合唱コンクールを行いました。今年のスローガンは「届け！響け！感動を！～世界の果てまでこの歌声を～」です。指揮者・伴奏者・実行委員・パートリーダーを中心に、各クラスで工夫して練習を積み重ね、体育館に個性あふれる歌声を響かせました。



おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加するこどもたちを写真で紹介するコーナーです。

越生町では将来を担うこどもたちが豊かな人間性や社会性を育むため、地域と連携し、様々な体験活動を推進しております。その中で越生町の主なり取組を紹介します。



1 森林教育の実施

小学校四年生から六年生を対象に「越生町地域おこし協力隊」や「NPO森の蘇りきら」の力を借り、樹木体験、森林教育を実施しています。立ち木の間伐材を活用した丸太アート制作を行ったり、森林を守り育てることの大切さと自分の生活との関わりについて理解を深めています。

2 梅もぎ体験の実施

小学校三年生を対象に、「JAごいるま野越生支店梅部会」に協力をいただき、梅もぎ体験を実施しております。収穫した梅は、梅干しにしたり、梅ジュースにしたりするなど、収穫だけでなく、加工し、食すまで体験しています。越生町の特産物である「梅」を通して、郷土を愛する心を育んでいます。

3 ふるさと教育の実施

中学校全校生徒を対象に、町役場の関係課の職員等を講師として迎え、ふるさと教育を実施しております。越生町の歴史や自然、文化について学び、越生町のために自分ができることを考え、まとめ、発表することを通して、郷土愛を育むとともに、表現力やコミュニケーション能力の向上を図っております。

4 職業体験の実施

中学校一年生を対象に、内外の各事業所にご協力をいただき、接客体験や、製造活動など、様々な社会体験を実施しています。多くの人から学ばれ、学校では得られない、豊かな感性や社会性、自立心を養うことを積むことで、豊かな人間性を育んでいます。また、活動を通じて、働くことの尊さを考えるきっかけともなっています。

今後も、学校、地域が一体となり、豊かな人間性を育み、主体的に生きる児童生徒の育成を目指してまいります。

越生浪漫 No.190

春日神社で流鏑馬が行われました!

10月13日(日曜日)、大字西和田の春日神社で流鏑馬が行われました。当神事の実施は昭和41年(1966)の台風26号が原因で中断されて以来、58年ぶりです。神社近くの休耕地に、新たに馬場を整備し、狩装束姿の「倭式騎馬會」の射手3名が日本在来馬を走らせました。当日は数百人規模の観客の歓声や拍手で会場が沸いていました。

かつて、この行事は大谷・西和田の各々30軒ほどの家で組織する「ヤブサメ組(マトウ組)」が執行していました。馬に乗る「乗り子」には13～17歳ぐらいまでの長男が選ばれていました。

念願の「再興」までには、当時を知る有志らが、伝統を途絶えさせないようにと活動してきた経緯もあります。平成24年度『広報おごせ』の記事を再掲いたします。こちらも合わせてご覧ください。

▲行列をつくり馬場まで練り歩き

▲見事に的を射抜いたところ

自然 歴史 越生浪漫 46

おもいでの流鏑馬

今年も毛呂山町の出雲伊波比神社の流鏑馬の季節が巡ってきました。昭和40年までは、越生町西和田の春日神社でも流鏑馬が行われていました。毎年10月9日、神社と八高線の間に設けられた馬場を、大谷の「一の馬」と西和田の「二の馬」が駆け抜けていました◆今年の9月14日、春日神社（石井嘉久宮司）の社務所に、氏子総代長の長島光一さん（昭和2年生）、昭和17年に一の馬の「乗り子」を務めた奥富善二良さんら、大谷と西和田のかつてのマトウ組（流鏑馬組）有志が集まり、流鏑馬に使っていたブチ（ムチ＝鞭）や矢などの祭礼用具を復元製作しました。流鏑馬中断以降は、御大典を記念して平成3年に行われて以来の20年振りの試みです◆先輩たちは記憶を手繰りながら、当時ワカイシ（若い衆）や子どもだった方たちは先輩の手ほどきを受けながら、朝から始まった作業は和やかに進み、夕刻近くには美しい用具一式が整いました。越生でもまだ流鏑馬復活が可能なことを示すかのような見事な出来映えでした◆10月8日の秋の大祭＝ハツグンチ（初九日）に社殿に飾られ、同日奉納された越生里神楽研究会による荘重な神楽とともに、華やかな趣を添えていました。

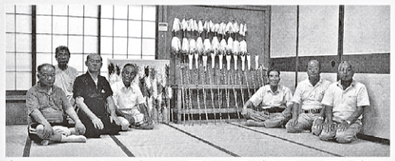
昭和28年の流鏑馬『おごせの祭りと芸能』より

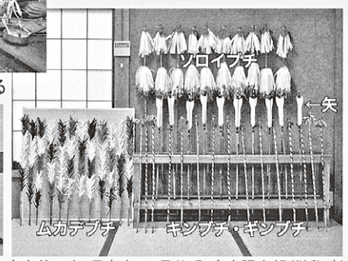
ムカデブチの紙を貼る

ブチに金紙と銀紙を巻く

矢羽根は和紙で作る

ソロイブチを和紙で飾る





参加された皆さん：左から、石井宣行、奥富欣一、石井嘉久、奥富善二良、長島光一、長谷明、奥富陽太郎（敬称略）

『広報おごせ　自然歴史 越生浪漫』より「おもいでの流鏑馬」（平成 24年11月号）